

授業科目名	医療従事者のための心理学 (英: Psychology for Medical Care Workers)		
対象学年	1年生	単位	2単位
科目責任者	はすぬま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター (内線 6864)
		メール	hasunuma@hiroshima-u.ac.jp
科目コーディネーター	はっとり みのる 服部 稔	所属	医学教育センター (内線 3031)
		メール	m-hattori@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	講義		
概要	近年、医学生が学ぶべき重要な項目として「人の行動と心理」が取り上げられている。心理や行動要因が健康や病気へ与える影響は大きく、医療におけるこれらへのアプローチは重要だからである。本講義では行動の成り立ちといった行動の基礎から、行動変容における理論と技法といった心理学の臨床応用について学ぶ。		
到達目標	<p>医療人類学や医療社会学等の行動科学・社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる。</p> <p>病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。</p> <p>自身が所属する文化を相対化することができる。</p> <p>人々の暮らしの現場において病気・健康がどのようにとらえられているかを説明できる。</p> <p>人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈の中で説明することができる。</p> <p>文化・ジェンダーと医療の関係を考えることができる。</p> <p>社会をシステムとして捉えることができる。</p> <p>病人役割を概説できる。</p> <p>対人サービスの困難（バーンアウトリスク）を概説できる。</p> <p>多職種の医療・保健・福祉専門職、患者・利用者、その家族、地域の人々など、様々な立場の人が違った視点から医療現場に関わっていることを理解する。</p> <p>行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考、性格との関係を概説できる。</p> <p>行動の脳内基礎過程を説明できる。</p> <p>行動と人の内的要因、社会・文化的環境との関係を概説できる。</p> <p>本能行動と学習行動（適応的な学習、適応的でない学習）を説明できる。</p> <p>レスポナント条件付け（事象と事象との関係の学習）とオペラント条件付け（反応と結果との関係の学習）を説明できる。</p> <p>社会的学習（モデリング、観察学習、模倣学習）を概説できる。</p> <p>生理的動機（個体保存、種族保存）、内発的動機（活動、感性、好奇、操作等）及び社会的動機（達成、親和、愛着、支配等）を概説できる。</p> <p>動機付けを例示できる。</p> <p>欲求とフラストレーション・葛藤との関連を概説できる。</p> <p>適応（防衛）機制を概説できる。</p> <p>主なストレス学説を概説できる。</p> <p>人生、日常生活や仕事におけるストレスとその健康への影響を例示できる。</p> <p>ストレスコーピング過程に関連する心理社会的要因を説明できる。</p> <p>ストレス対処法を概説できる。</p> <p>こころの発達を概説できる。</p> <p>ライフサイクルの各段階におけるこころの発達と発達課題を概説できる。</p> <p>こころの発達にかかわる遺伝的要因と環境的要因を概説できる。</p> <p>パーソナリティの種類と特性を概説できる。</p> <p>パーソナリティの形成を概説できる。</p> <p>知能の発達と経年変化を概説できる。</p> <p>役割理論を概説できる。</p> <p>ジェンダーの形成並びに性的指向及び性自認への配慮方法を説明できる。</p> <p>人間関係における欲求と行動の関係を概説できる。</p> <p>集団の中での人間関係（競争と協同、同調、服従と抵抗、リーダーシップ）を概説できる。</p>		

	<p>健康行動や行動変容を行う動機付けを概説できる。  行動療法を説明できる。  認知行動療法を説明できる。  心理教育を説明できる。  生活習慣病における患者支援（自律性支援）や保健指導を概説できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	<p>毎講義出席カードにて出席をとる。  出席が3分の2に満たない学生については試験（本試験、再試験とも）の受験を認めない。</p>
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用）
評価法	MCQ形式にて試験を行う。本試験における合格基準は絶対基準(60点)とする。素点にレポートや小テストなどで加点する場合もある。
履修上の注意 アドバイス	毎回出席カードを配ります。空欄がありますので積極的に質問を記載してください。授業中に回答します。
推奨参考書	日本行動医学会(編集), 行動医学テキスト, 中外医学社